

国語科学習指導案

日時
対象
会場



1 単元名 文の組み立て
主語・述語の関係 光村図書 国語1 文法

2 単元(題材)の指導目標

国語科：一つの文の中から、主語・述語となる「何が」「どうする」という文の中心となる語を捉え、文の意味を正しく理解する。
日本語：主語と述語がきちんとかみ合った正しい日本語で文章を書く力を付ける。

3 単元(題材)の評価規準

観点	学習活動	学習活動に即した具体的な評価基準
話すこと	文の中から、主語・述語を探し、発表する。	「何が」→「どうする・どんなだ」をとらえることができたか。
聴くこと	日本語と母語の構造の違いの説明を聞く。	日本は、語順が変わることがあることを理解できたか。
書くこと	主語を提示し、それに合う述語を考えて書く。	主語に合う言葉を考えて書くことができたか。
読むこと	文章問題を読む。	何を問われているのか考えながら読むことができたか。

4 単元(題材)の指導計画と評価計画 (2時間扱い)

	学習活動・学習内容	学習活動に即した具体的な評価規準 [評価方法]
第1時 本時	<p>導入 本日の授業のめあてを提示する。 生徒の母語と日本語の構造の違いを確認する。</p> <p>展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 主語・述語を組み合わせる問題を解く。 2 文の中から主語・述語を探す問題を解く。 3 指定された主語から、述語を想像して書く。 4 算数の文章問題を解く。 <p>まとめ 本日の授業の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語は、中国語と違い、主語が省略されたり語順が変わったりすることがあると理解できたか。(発言) ・文の中で、「何が→どうする・どんなだ」をとらえることができたか。(ワークシート) ・主語・述語が正しくかみ合っている文が作れたか。(ワークシート)
第2時	<p>導入 主語・述語の復習</p> <p>展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 修飾語の定義を理解する。練習問題を解きながら考える。 2 主語・述語に、自分で考えた修飾語を加えて、文を作る。 <p>まとめ 本日の授業の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「いつ」「どこに」「どのような」等、詳しく説明している文節を探し、それらの言葉が何を修飾しているのかを考えることができたか。(ワークシート)

5 指導に当たって

基本的には中学校で学習する国語の分野であるが、教科書の説明や例文では、外国人生徒には理解しにくいので、小学校3年～中学校1年の問題集を参考にして、わかりやすい例文や例題を考える。それでも、言葉の意味がわからないかもしれないので、念のため母語を併記する。また、すべての漢字にルビをふる。

6 本 時 (全2時間中の1時間目)

(1) 本時のねらい

国語科：主語・述語とは何かを理解し、一つの文の中で、主語・述語を見付けることができるようにする。
日本語：日本語の構造を理解する。

(2) 本時の展開

	学 習 活 動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準(評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の授業の目標を確認する。 主語・述語の語順の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 板書で目標を明示する。 関心を高めるために、母語と日本語の違いを示しておく。 中国語や英語は、主語の次に述語がくるが、日本語は、たいてい最後の方に述語がくるということを伝える。 	日本語は、主語が省略されたり、語順が変わったりすることがあるが、英語や中国語は、語順が変わると文の意味が変わってしまうことを理解できたか。(発言)
展開1 5分	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語を示し、線でつなぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の意味を母語で併記しておく。 漢字には、ルビをふっておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>係り受け解析</p> <ul style="list-style-type: none"> 「何がどうする」「何がどんなだ」「何がある(いる)」という基本を、紙に書いて掲示する。 </div>	言葉の意味を理解し、正しく線でつなげることができたか。 (ワークシート・発言)
展開2 15分	<ul style="list-style-type: none"> 問題文を示し、その中から主語と述語を探す。 	<ul style="list-style-type: none"> 文は、生徒と教師が共有できるように、ホワイトボードにも拡大して掲示する。 漢字には、ルビをふっておく。 ワークシートは、すぐには渡さず、ホワイトボードで問題に取り組んだ後で配り、確認しながら記入する。(書く時間をとる。) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>イメージ同定</p> <ul style="list-style-type: none"> 文節ごとに枠で囲み、色をつけたり矢印を書いたりして、わかりやすく表記する。 </div>	「何が→どうする・どんなだ」という意味を考えて、主語と述語を正確に抜き出すことができたか。 (ワークシート・発言)
展開3 10分	<ul style="list-style-type: none"> 指定された主語に対する述語を自由に想像する。 		イメージをふくらませて、複数の述語を考えることができたか。 (ワークシート・発言)
展開4 10分	<ul style="list-style-type: none"> 主語・述語をとらえ、文の意味を正しくつかみ、算数の問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間があったら、算数以外の文章問題に挑戦する。 	
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本日の学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 主語・述語をとらえることで、問われていることの意味を正しく理解できるということを、算数の文章問題を通して確認する。 	問題文を正しく読み取ることが大切であることを理解できたか。 (発言)